



Lend a Hand
手を貸そう

国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-2-18 第641回例会 NO.14-30 2004-3-3 発行

◎司会

SAA委員会 宮本 誠

◎点鐘

会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「それでこそロータリー」

ソングリーダー 菊池 敏

◎お客様紹介

会長 大松 誠二

- ・岡山西南RC
- ・米山奨学生

椎原 裕二 様
金 今 善 様

◎会務報告

会長 大松 誠二

第12回臨時理事会報告(2月5日開催)

- ・2004~05年度地区役員指名要請について
地区副幹事に赤尾恭雄会員を推薦いたしました。

第13回定例理事会報告(本2月18日開催)

- ・寿例会会計報告について
別紙配布の決算報告の通り承認しました。
- ・会員候補者の推薦について
定款の定めにより慎重審議の結果、新会員候補者1名の推薦を承認しました。(新入会員候補のお知らせ配布済) 異議のある方は細則の規定により7日以内に書面をもって申出て下さい。申出がなければ入会手続を開始します。
- ・花見親睦旅行について
4月11日~12日開催の親睦旅行(移動例会) に関する親睦活動委員会の計画及び予算を承認しました。

(同委員会提案理由)

この日程は、例年ですと山梨の桃の花が満開となり桜もちょうど見頃の季節となります。お天気が良ければ残雪の南アルプスも見られ、素晴らしいお花見旅行になると思います。是非、年に一度の移動例会ですので、会員相互の親睦を深める良い機会です。楽しい旅行にしたいと思っております。どうぞ多くの会員の参加を

お待ちしております。

- ・藤原正範会員の出席免除について
同会員より3月1日~同31日に至る期間の出席免除申請が提出されましたので、細則8条により承認しました。
- ・その他
ピースボート運動への募金について協力依頼

◎幹事報告

幹事 藤本 吉文

- ・地区委員会の上半期活動報告と下半期活動計画が届きました。(事務局保管)
- ・ロータリー100年史「奉仕の一世紀：国際ロータリー物語」の注文は事務局まで。
1冊25ドル(2,650円)
皮装丁は1冊100ドル(10,600円)
- ・東京日野RC、東京多摩RC、東京稲城RCから例会変更通知がきております。
- ・3~4月の例会予定表を配布いたしますのでご参照下さい。
- ・大松会長の御尊父様ご逝去に係る香典返しが喪主大松健志様より届きましたので報告いたします。
- ・2月17日現在、会費未納の方がおられますので納付方お願いいたします。
- ・来週25日の例会は、26日・27日の地区大会に振替えますのでお忘れなく地区大会に出席をお願いします。

◎次年度会務報告

次年度会長 菊池 敏

◆被選理事会報告

- ・2004~05年度理事会方針案が承認されました。
- ・2004~05年度委員会組織の一部変更が承認されました。
- ・年間予定表のうち、2005年2月9日の例会は、2月

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagro@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会 長】大松誠二 【幹 事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委 員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井真司・小田泰樹

10日・11日開催の地区大会に振替えを決定しました。

- ・赤尾会員の次年度地区副幹事指名を被選理事会も承認しました。

◆被選クラブ協議会が2月25日に開催されます。日程的に地区大会前日ですが、次年度各委員長の方は出席をよろしくお願いします。

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員長 平野 行廣

- ・会員総数 43名
- ・出席義務者数 42名(出席免除者2名)
- ・出席者数 30名
- ・欠席者数 12名(事前MU2名)
- ・出席率 76.19%
- ・欠席者：阿部 華歌、足立潤三郎、藤原 正範、北村 幸彦、小泉 博、小城 章員、正房 正孝、小田 泰機、菅井 信夫、澄川 昇、高木 淳光、高野 範城
- ・補填MU：小城 章員 2/17 東京飛火野RC
澄川 昇 2/12 地区新会員セミナー
高木 淳光 2/4 被選理事会

2/4 最終訂正出席率 88.10%

◎ニコニコBOX

親睦活動委員会 高村 弘

大松 誠二 やっと春が来ましたね。花見旅行が楽しみです。

藤本 吉文 来週、25日の例会は26-27日の地区大会に振替ですので、お間違いのないように！！

伊藤 英也 何もないけどニコニコ

宮村 宏 娘が二子玉オープンレディステニスで優勝しました。

萩生田政由 週末に京王赤倉温泉スキー場でスノーボードをやります。

津守 弘範 このところ、暖かさが増してきていますが、続くのでしょうか？風邪に気をつけて下さい。

加藤喜三郎 お久しぶりです！！今月は1回のみ。

杉野志保子 お久しぶりです。

伊澤ケイ子 暖かくなりましたネ。

由井 眞司 小林(正)さん、先日はありがとうございました。二人で世話したロシア美人は元気で帰っていきました。

〃 先週は風邪で休みまして申し訳ありませんでした。

海野 榮一 三寒四温・・・！ポチポチ春ですね。

根本 泰守 本年の関戸花火大会中止決定になりました。残念！

本日の合計¥19,000 (累計¥635,559)

◎次年度クラブ奉仕委員会

委員長 小林 和夫

クラブ奉仕関連各委員長の方々にご相談がありますので、本日例会後、2階のラウンジにご参集下さい。

◎会員増強委員会

委員長 田中 實

会員増強もいよいよ追い込みの時期になりました。先日は各グループのリーダーの方々に参集いただき打ち合わせしましたが、現在のところまだ成果が出ておりません。会員候補として相応しい方がおられましたら、是非ともご紹介下さい。

◎由井会員より大松会長へバナー伝達

学会参加のためドイツ(旧東ドイツ・イエナ)へ出張、地元ロータリー・クラブでメーク・アップの際に交換したバナーを大松会長へ伝達。

◎表彰

ロータリー財団委員会

ポール・ハリス・フェロー

加藤喜三郎会員



◎2月誕生日祝

親睦活動委員長 伊澤ケイ子

足立潤三郎会員 横倉 舜三会員 由井眞司会員



◎ロータリー情報委員会

委員長 小坂 一郎

2月12日、地区新会員研修セミナーに対象者2名の方と私の3名で出席いたしましたのでご報告します。

◎点鐘

会長 大松 誠二

(例会担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 30

1年分の薪を買って、直ぐストーブにくべられるように割っておくことは祖父の仕事で、順序よくやっていた。その手順は、豚肉、牛肉、小麦粉、そば粉、シロップや桃を1年分買うのと同じだった。祖父は仕事をする時には何でもよく考えた上で体系化していた。仲買人を嫌っていたわけではなかったが、ある部分は自分が仲買人の役目を演じていた。物資調達に関する祖父の信念は、何時でも安い時に、生産者から直接、大量に買うことだった。

祖父の財布は「かもしか」の皮で出来ていて、おなじ皮で出来ている長い紐を幾重にもグルグルと巻いて結んでいた。従って、革紐を解くのに時間は掛かり、その間は、お金を使うかどうかをもう一度考えてみる時間でもあった。もし考え直すと、最後の瞬間に買うのを止め出費を控えた。祖父が財布の紐を解くのは、最近のビジネスマンが金庫の文字盤を回すのと同じで、神妙な一瞬だった。

祖父は薪を買う時には、堅い薪と柔らかい薪とを買った。買う相手は山に雑木林を持っているフランス系カナダ人だった。薪の買い付けは、冬の初めになって、雪が降って橇が使えるようになってから配達させていた。冬があまり深まらないうちに、楓、ぶな、蝦夷松、樺、松の薪を初橇が牛に引かれてやってきた。そして、薪を納屋の前にきちんと積み上げさせ、大体8棚分の薪を買っていた。配達が全部終わると、祖父は木こりの前できちんと計量し、規格に合っていると二人で台所に行った。木こりはフェルトの長靴を踏み鳴らして雪を落とし、台所の中に入って購入代金の「支払い式」を行なった。

二人とも座らずにストーブの横に立ち、祖父はストーブの後ろのお湯のタンクの上に腕をのせ、一言二言面白そうな話を交え、今度は木こりがブローケンな英語で殆ど一人でまぐし立てていた。頃合いを見計らって、祖父は慎重な手つきでカバオールの上部のポケットから、おもむろに「かもしかの財布」を出して紐を解き始めた。

フランス系カナダ人の木こりも、祖父の代金「支払い式」から何等かの教訓やヒントを受けたに違いない。も

し、代金が百万ドルでも、こんな仰々しく勿体ぶった儀式のようなことはしないだろう。しかし、当時のバーモント人は、よく考えた上で支払いをしていた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 31

ポールの子供の頃、故郷の村ではほぼ自給自足の生活をしていて、川の畔の草原は肥沃で畑作に適し、周りの丘は牧草地帯になっていた。付近の山は良い木材が豊富で、ウォリングフォードの中小企業は殆どこの木材を材料にして息をついていた。農具工場では、熊手の取っ手に「とねりこ」を使っていた。雪シャベル製作所では山にある「白とねりこ」を、荷馬車工場では、車体に「ヒッコリー」と「とねりこ」の両方を、車輪の「こしき」には固い樫の木を使っていた。美味しいコンビーフのハヤシ料理や挽肉のパイを作るのに主婦が使うポールは「楓」の木で作った。

山には、片足のブラット老人が棺桶を作る材料の松や蝦夷松がふんだんにあった。建具工場で窓枠と扉を作る材料には松が必要だった。「樺」の樹皮は毛皮をなめす時に欠かせないもので、杉は屋根板と柱になった。バーモントの丘陵山岳地帯では世界最高の大大理石と花崗岩を産出していた。昔、ウォリングフォードでは煉瓦の生産も行なっていたが、帽子製造業とともに消えてしまい、石灰製造業もなくなってしまった。

ジョン・ディニーとウィル・コールマンは何時も一緒に学校に来たが、冬の寒い日にも、岩だらけの山道を歩き回ってくるので、二人とも見分けが付かないほど、頭を覆っていた。二人は学校の成績は優秀で、卒業するとジョンは農業に戻ったが、ウィルは実業界に入るようになった。

実業界に入る若者は、先ず村の店で修業してから、群の中心地ラトランドの大商店で経験を積み、実力が付いたところでトロイ、アルバニー、ニューヨークやボストン等にある大会社に就職するのが一般的なやり方だった。ウィルはこの三段跳びが気に入らず、直接ボストンの大会社に就職することにして、ボストンまでの汽車賃と数日間の宿泊代を溜めた。ボストンに着くと早速就職活動を始め、足の赴くままに製靴機械では世界第一の会社を訪問、玄関を入ると社長に面会を求めた。しかし、子供なので相手にされず謝絶されたが、ウィルのしつこさに社長が会うことになった。

結局、入社を許されたウィルが最後に占めたポストは、パリに本部がある全欧州支配人だった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』入門編 日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは第二次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でクラブ数は2,318、会員数112,114人(2002年11月末現在)となっています。(コーナー担当:遠藤二郎)

★「ロータリーの友」拾い読みコーナー★

2月号 《言いたい聞きたい》より

私の「奉仕の理想」論

東京目黒RC 増谷 宏氏

(第2750地区 東京都 建築設計)

「奉仕の理想」という言葉は、ロータリアンになって初めて耳にしました。その意味については、先輩ロータリアンからもいろいろ解説を受けたのですが、いまだ、明確な解説が、聞けていないような気がしてなりません。

「奉仕の理想」と訳した原因は、原文が“the ideal of service”と、わざわざ“the”という定冠詞をつけているためだろう、と思います。

そうであれば、ロータリアンにとって「奉仕の理想」は、立派な固有名詞であって、その真に意味する内容は、単に理想的な奉仕とか、思いやりの心というように、形容詞のついた、一般的な名詞として片づけてしまうことは、正確な表現とはいえないと思います。

さて、ポール・ハリス著・米山梅吉訳「ロータリーの理想と友愛」(原題「THE ROTARIAN AGE」)の141

～160ページには、奉仕の理想の意味が、明確に書かれています。始めのところで「汝、他人より与えられんと欲するすべてを他人に与えよ」というイエス・キリストの言葉を新約聖書から引用、さらに厳しい見解が続くことには、驚嘆します。

ジョン・ラスキンという言葉として、「人間は当然の場合には、その職務のために死すべき義務を負う」、あるいはまた、「奉仕の理想の運動にとり、最大の障碍となる一事業は、富の崇拜である」と断じているのです。

ロータリーの綱領では、まず全文に「奉仕の理想の鼓吹」という中心命題が出てきて、第一が第四までの綱領のすべての項目を貫いています。従って、ロータリー哲学の、まさに原点として「奉仕の理想」が存在している、といってもよいのではないかと。

私はこの「奉仕の理想」という言葉を「ロータリアンの魂」と表現してもよいのではないかと考えた次第です。

マルクス・アウレリウス・アントニヌスも、彼の著書「自省録」の中で、「ただ、魂のみが、自分自身の向きを変え、(中略)外側から起こってくる物事を自分のために処理するのである」と述べています。

(コーナー担当:正房 正孝・高木 淳光)

(注)

ジョン・ラスキン

(John Ruskin)

イギリスの芸術評論家・社会思想家(1815～1900)。社会改良の理想を説いた。著書は「胡麻と百合」など多数。

マルクス・アウレリウス・アントニヌス

(Marcus Aurelius Antoninus)

古代ローマ帝国皇帝。ストア学派の哲学者(121～180)でもあり、「哲人皇帝」として知られる。唯一の著「自省録」は、原題を直訳すれば「自分自身」となり、静かな思念のもとに、深く人間性を追求した倫理の書として、古今東西で著名。

「ロータリーの友」2月号 横組み16～18ページ掲載 『ポール・ハリスの面影を求めて』

取材「ロータリーの友」編集長 仁神 典子氏
を週報連載中の『ポール・ハリスを我々の心に!』と併せて是非お読み下さい。



草のつ